

渡辺寛三郎著『黒滝城』

故渡辺寛三郎氏は岩室の出身で、大正12年1月から昭和4年3月まで弥彦南尋常小学校（後の麓小学校）校長を務められた人である。その余暇に史跡や伝承・古文献を丹念に調べて、昭和4年、郷土読本『黒滝城』をまとめて小学校の図書室に備えられた。昭和19年退職後は、昭和30年に亡くなるまで郷土の史跡や文化財の保存に尽力された。



『黒滝城』は、「編するにあたりて」によれば、本書は、松田権之丞治近定専坊入道日記、上杉三代日記、鷲沢実記、北越太平記、越のふだ落、越内内輪弓箭物語、上杉将士書、陣鐘口説、照田譜代系図、越後史集、越後古代史の研究、歴史参考書や伝説を参考にしたという。

昭和30年10月、氏はすでに故人となっていたが、麓小学校創立80周年の節目に、宮島久一校長が中心となって黒滝城刊行委員会を組織し、孔版刷りで復刻された。奥付に頒布価格は120円と記されている。

昭和53年1月、新潟県郷土叢書編集委員会編による『新潟県郷土叢書』十三が歴史図書社から発刊された中に「黒滝城」が収められた。活字本として復刻されたので、一般の歴史愛好家が読むことができる本となった。

平成18年1月、渡辺寛三郎氏の孫に当たる渡辺邦彦（旧巻町在住）・渡辺紀夫（旧岩室村在住）両氏の手で、祖父の遺稿集『郷土』が自費出版されたが、この中に「黒滝城」も収められている。『郷土』という表題は、氏が出生された岩室をはじめ、弥彦、分水、巻の伝説や歴史・文化財などのほか、一般の部として民俗編も加えて編集された大冊となった。